

| 科目名                | 在宅看護学演習Ⅱ<br>Home Care Nursing Seminar I  |   | 担当教員<br>(研究室番号)  | 未定 |      | 教員への連絡方法<br>(メールアドレス) |         |       |        |      |        |   |
|--------------------|--|---|--|----|------|-----------------------|---------|-------|--------|------|--------|---|
| 履修年次               | 1年次後期  | 科目区分  | 専門科目   |    | 選択区分 | コース必修                 | 単位数(時間) | 2(30) | 授業形態   | 演習   | 科目等履修生 | 否 |
|                    |  |   |  |    |      |                       |         |       |        | 遠隔授業 | 一部     |   |
| ディプロマ・ポリシー<br>(DP) | 主要なDP  | 3. 地域の特性や変化する社会のニーズを的確に捉え、看護学教育および実践看護学に関する課題を追究していきける研究能力を身につけている。 |  |    |      |                       |         |       |        |      |        |   |
|                    | 関連するDP   | 1. 多様化・複雑化・高度化する看護ニーズを的確に捉え、看護の特定領域における高度な看護実践能力や総合的な調整能力を身につけている。  |  |    |      |                       |         |       |        |      |        |   |
| 科目目的               | 療養者・家族の健康と生活に活用できる理論やモデルを応用して、在宅看護におけるフィジカルアセスメント、家族アセスメント、生活環境アセスメント、セルフケアアセスメントの実際について修得する。また、在宅療養者・家族に関わるケアマネジメントの理論と実践について探求する。          |   |  |    |      |                       |         |       |        |      |        |   |
| 到達目標               | 1. 在宅療養者・家族の健康と生活に活用できる理論やモデルを応用して、在宅看護におけるフィジカルアセスメント、家族アセスメント、生活環境アセスメント、セルフケアアセスメントの実際について修得する。<br>2. 在宅療養者・家族に関わるケアマネジメントの理論と実践について探求する。 |   |  |    |      |                       |         |       |        |      |        |   |
| 成績評価方法(基準)         | 授業への参加度(授業準備・積極性)50%、授業中の取り組みや態度30%、レポート20%  |   |  |    |      |                       |         |       |        |      |        |   |
| 教科書                | 教科書も随時指示していく   |   |  |    |      |                       |         |       |        |      |        |   |
| 参考書等               | 参考文献および資料は適宜指示する。  |   |  |    |      |                       |         |       |        |      |        |   |
| 受講者へのメッセージ         | 療養者本人のアセスメント、本人をとりまく家族や環境のアセスメントについて事前学習する。主体的な取り組みを期待する。  |   |  |    |      |                       |         |       |        |      |        |   |
| 備考                 |  |   |  |    |      |                       |         |       |        |      |        |   |
| 回                  | 学習項目   |   | 学習内容   |    |      |                       |         | 主担当教員 | 授業方法   |      |        |   |
| 1回                 | 在宅看護におけるフィジカルアセスメント①   |   | ・家族アセスメント・生活環境アセスメントとの関連を考慮して行う在宅看護場面におけるフィジカルアセスメント<br>・信頼できる確かなフィジカルイグザミネーションとその結果を適切にアセスメントする能力<br>・評価の結果を関係専門職間で共有・活用するための標準化された情報と共通言語の意義   |    |      |                       |         | 未定    | 対面(演習) |      |        |   |
| 2回                 | 在宅看護におけるフィジカルアセスメント②   |   | 日常生活雑音のある在宅という環境の中での、呼吸音、心音、腸音の聴取、腹部触診、光量の少ない民家の中での自然光を利用した浮腫の有無、皮膚の性状と色、粘膜の性状と色等の観察と、その留意点と工夫について考える。   |    |      |                       |         | 未定    | 対面(演習) |      |        |   |
| 3回                 | 在宅看護におけるフィジカルアセスメント③   |   | 学生グループで以下の課題で討論を行う。<br>「確実なフィジカルイグザミネーションの結果を適正に判断し、その判断から導くべき看護について考える」討議の内容を発表し、教員を交えて討論を深める。  |    |      |                       |         | 未定    | 対面(演習) |      |        |   |
| 4回                 | 家族アセスメント①  |   | 家族看護学の発展と家族を理解するための諸理論の理解のために以下を学修する。<br>1. 家族とは何か<br>2. 介護家族の状況<br>3. 家族の発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処論<br>4. 上記1～3を概観し、以下の4種のモデルについて、その特性について講義し、家族のアセスメントを実施する<br>・家族アセスメント・介入モデル(Berke. K. M & Hanson. S. M. H)<br>・カルガリー家族アセスメントモデル(Wright & Leahey)<br>・家族生活力量モデル(家族ケア研究会)<br>・家族看護エンパワーメントモデル(野嶋佐由美) |    |      |                       |         | 未定    | ライブ配信  |      |        |   |
| 5回                 | 家族アセスメント②<br>家族内コミュニケーションの諸相   |   | 家族危機のアセスメントツールとしての「家族内コミュニケーション」を使用して家族のコミュニケーションの分析を行う。<br>テキストの豊富な家族の描写から家族のアセスメントを行う。<br>1対1から、複数家族のコミュニケーションへ拡大させるコミュニケーション分析<br>在宅療養者と家族に関わるケアマネジメントの理論と実践  |    |      |                       |         | 未定    | ライブ配信  |      |        |   |
| 6回                 | 家族アセスメント③  |   | 家族の危機とコミュニケーション<br>自分の家族を塑像する(演習)<br>過去・現在・未来の自分の家族を塑像し、家族アセスメントを行う。<br>家族への幻想、家族への偏見など、自分と家族の真の姿を模索してみる。  |    |      |                       |         | 未定    | ライブ配信  |      |        |   |
| 7回                 | 生活環境アセスメント①(6領域から学ぶ)<br>健康領域<br>安全領域   |   | 寝ている生活からの脱却を目指して、ベッドから身体を移動する目的(食事、排せつ、清潔、交流等)とそれを達成するための方法を段階的に考える。<br>療養室とベッドの位置、手すり、立ち上がり補助具、就床環境での物品配置、床面、ドア等の設備、それを活用するための運動機能や服装、履物との関係、移動距離等々を複合的に検討する。   |    |      |                       |         | 未定    | ライブ配信  |      |        |   |
| 8回                 | 生活環境アセスメント②(6領域から学ぶ)<br>安心領域<br>個別性領域  |   | 訪問現場における生活環境アセスメントの実際<br>療養者と家族の在宅療養生活の質の向上につながる生活環境アセスメントの意義を講義する。  |    |      |                       |         | 未定    | ライブ配信  |      |        |   |

| 回   | 学習項目                                       | 学習内容  | 主担当<br>教員 | 授業<br>方法   |
|-----|--|---|-----------|------------|
| 9回  | 生活環境アセスメント③（6領域から学ぶ）<br>自立（自律）支援領域<br>支援体制 | 介護保険制度を活用した住宅改修の考え方と実際<br>福祉住環境コーディネーターの資格と活動<br>・療養者の生活の質を向上させる生活環境アセスメントの例<br>・家族の介護疲労を軽減させるための生活環境アセスメントの例<br>事例をもとにグループ討議を行い、対象の生活環境アセスメントを行い、改善策を提案するまでの課題を行って、発表する。 | 未定        | ライブ<br>配信  |
| 10回 | 在宅ケアの目標である<br>セルフケアアセスメント①                 | ・アセスメントシートを使用した情報の整理<br>学生をグループ分けする<br>自身を一人の成人として、客視し、セルフケアの観点から分析してみる。  | 未定        | ライブ<br>配信  |
| 11回 | セルフケアアセスメント②                               | 分析の結果を発表し、指導者を交えて討議する中で、個人・集団を問わず、セルフケアは問題解決能力の向上に大きく関与しているというセルフケアアセスメントの意味を再確認する。   | 未定        | ライブ<br>配信  |
| 12回 | 在宅療養者・家族に関わる<br>ケアマネジメントの理論と実践             | 以下の事例で、宮城県方式を活用したケアアセスメントの方法とプラン作成を行う。<br>73歳女性、腰部打撲から寝たきりになり、仙骨部に褥瘡を併発したが、同居家族の介護協力が乏しい事例。要介護3の認定を得ている。<br>褥瘡対策として訪問看護が導入された。<br>学生はケアプラン展開例を提示し、教員を含めて討議する。             | 未定        | ライブ<br>配信  |
| 13回 |  |   |           |            |
| 14回 |  |   |           |            |
| 15回 | 本科目のまとめ                                    | あらかじめ、学生が課題レポートを提出し、その内容に沿って討議を行う。  | 未定        | 対面<br>(講義) |